

白木オブザーバー説明資料

第二創業が必要な背景

- ✓ 入会率は10%台に低下（目標：60～70%へV字回復）
- ✓ 活動の見える化や情報発信が不十分
- ✓ グローバルな資産を活かし切れていない
- ✓ 活動・組織・財政の好循環が未確立
- ✓ 次世代の牽引力が十分に育っていない

IYEOの強み（40年の資産）

- 約1万人のOB・OG（海外を含め約4万人）
- 世界 約80 各国に広がるネットワーク
- 内閣府青年国際交流事業との連携・信頼
- 多様な専門性・経験・つながり
- 全国47都道府県・8ブロック体制

Challenge for Challengers!

IYEO第二創業宣言

～挑戦者のための挑戦～

若者を中心に、世代を超えてつながり、挑戦を応援し合うことで、
地域・日本・世界の未来を**共創**する。

キーワードは「Challenge for Challengers」
形は変われど、青年育成の土壌を次世代へつなぐ。

Challenge for Challengers エコシステム



4年間のグッドサイクル（活動の好循環）

① 出会う

オンボーディング・交流・仲間づくり

② 学ぶ

研修・対話・理解
知識とネットワークを広げる

③ 挑戦する

プロジェクト・地域実践・役割挑戦

④ 還元する

伴走・知見共有・次世代育成

挑戦者が増える

仲間が増え、活動が活性化

活動の価値が見える

成果・インパクトを
見える化・発信する

財源・組織基盤強化

ファンドレイジング・
入金増で基盤拡大

次世代へ継承

次世代が主体的に
組織を牽引する

重点施策 （具体アクション）

- フラッグシッププログラムの創出
若者が集う魅力的なイベント・プロジェクト
- オンボーディング施策の強化
PRツール拡充・コミュニティ運営
- 海外・テーマ別チャプター制度
グローバルな交流・活動グループを創出
- 多段階人材育成・キャリア支援
ナショナルリーダー等の推薦・支援も強化
- テーマ別活動・社会課題解決
環境・教育・多文化共生・起業などを支援
- ファンドレイジングと政策提言
情報発信・ロビー活動で活動基盤を拡大
- 価値の見える化・情報発信
インパクトレポート・アニュアルレポート
- チャレンジファンド制度の抜本改革
使いやすく、挑戦を後押しする支援へ

第二創業で目指す4つの柱

01 夢や志を持った次世代を応援する “若者ファースト”

- ・オンボーディング施策／キャリア・事後活動支援
- ・多段階人材育成／プロジェクト支援

02 “多世代グローバルネットワーク”の 実践的活用

- ・全国8ブロック・47都道府県での交流と活動
- ・海外・テーマ別チャプター制度の導入
- ・グローバルキャリア・海外ネットワークの活用

03 社会価値共創を作り出す “コレクティブインパクト”

- ・テーマ・専門性による活動グループの創出・支援
- ・他団体との連携・協働・共創
- ・価値の見える化と社会性の高い活動の推進

04 持続可能な運営体制を作り出す “グッドサイクル”

- ・チーム再編・制度の見直し・副会長立候補制の検討
- ・ファンドレイジング・情報発信の強化
- ・次世代へバトンをつなぐ体制づくり

重点推進チーム（新幹事体制のもと、横断的に推進）

戦略



会議運営・
組織改革・
広報／財政

グローバル



海外連携・
国際交流・
学び

ローカル



県IYEO連携・
地域活動・
受入れ

ソーシャル



社会課題・
専門性・
共創プロジェクト

事務局・戦略チーム
全体をつなぎ、戦略的に推進

最終ゴール

Challenge for Challengers を合言葉に

挑戦者のための挑戦

挑戦が連鎖する社会をつくる

IYEOは、40年の蓄積を力に、第二創業のその先へ。

- 6月重要会議の推進
- 新役員オンボーディング
- 若手会員の参画
- あり方検討会議
- 外部連携と価値の可視化。

IYEOの現状と課題

3つの機能を土台から見直し、事後活動の価値を未来へつなぐ

IYEOとは（前提）

- ・設立約60年。内閣府（旧・総理府）の青年国際交流事業の「同窓会組織」であり、事後活動を担う団体。
- ・出身母体の事業：世界青年の船（SWY）、東南アジア青年の船（SSEAYP）、航空機を用いた国際青年育成交流事業、旧・コアリーダー育成事業 ほか
- ・参加青年のほぼ全員がアルムナイ（OB・OG）としてデータベースに登録。
- ・全国47都道府県の地方組織、事業別同窓会、各国アルムナイ協会（SWYAA、SI/SIG等）と連携。
- ・目的：次世代グローバルリーダーの育成と、地域社会・国際社会への貢献。

活動領域の階層（IYEOの位置づけ）

 国際社会	平和・共生・持続可能な社会の実現に貢献
 日本社会・地域社会	国際交流の推進、次世代育成、地域活性化・社会貢献
 事後活動（IYEOの3機能）	同窓会機能／事後活動／支援機能
 内閣府事業の参加青年	SWY・SSEAYP・航空機事業・旧コアリーダー事業等の参加者

全機能に共通する
土台の課題



IYEOは任意団体であり法人格を持たないため、各種契約の締結や助成金の獲得が非常に困難。

→ 3つの機能すべての活動余地を制約している根本要因



同窓会機能 | 交流の基盤

内閣府事業出身者のつながりを温め、維持する受け皿

- ・かつては参加者から入会金を一括で集める体制だったが、本人の意思で支払う制度に変更され、正会員になるのは事業参加者の約4割にとどまる。
（ただし同窓会機能としては、アルムナイ＝OB・OGとしてほぼ100%が登録されている）
- ・コロナ禍を機に、各都道府県で行われていた一次選考が内閣府による直轄の募集へ変更され、「全国から選拔し、全国へ還元する」という機能が失われて久しい。
- ・ボランティアを基調とする組織のため、就職・子育てなどで多忙な層は活動が限定的になりがちで、結果として活動から離れていってしまう。



47都道府県の
地方組織



事業別同窓会
ネットワーク



各国アルムナイ協会
（SWYAA・SI/SIG等）



広報・説明会・
報告会の運営



事後活動 | 主体的な貢献

出身者が自ら主体となって、地域社会・国際社会に貢献する活動

- ・内閣府事業を下支える役割は一定程度果たしている。
- ・しかし、次世代グローバルリーダーを育成するためのキャリア支援のノウハウが弱い。
- ・地域・国際社会への貢献プロジェクトを実際に動かしていく力・ノウハウが不足している。

主な活動例



国際交流の
推進



次世代人材育成・
地方プログラム
（内閣府との共催
ブロックイベント）



社会貢献活動の
実施
（例：東海チャレンジャー
サミット（トビタテ！留学
JAPAN・JICA協力隊
OB/OGと連携）



SWYフォレスト
植樹活動



災害積立金による
支援 等



支援機能 | コ・クリエーション

会員・アルムナイの「次の一歩」を支える機能

- ・会員・アルムナイの挑戦を支える「支援母体」としての基盤が、実情として非常に頼りない。
- ・基金運用や活動支援のノウハウが未成熟で、制度として機能しきれていない。

主な支援メニュー



三段の基金による
支援
（チャレンジファンド/
育成ファンド/
フラッグシップ
ファンド）



災害積立金



会員プロジェクトへの
資金・広報支援



伴走・ネットワー
クの提供

一方で、
保たれている基盤
（強み・現在の状況）



内閣府の
「自己活動充実強化予算」
を含む予算が
活用できている。



幹事会、推進会議、
各種国際連盟の会議などは
着実に開催されている。



組織運営の基本は
一定程度保たれていると
理解している。

課題は多いが、積み上げてきた信頼・つながり・仕組みは、
次の飛躍の土台として残されている。



改革の方向
（これから）

今回の「あり方検討会」を機に、事後活動および組織のあり方を大幅に見直し、改革を進める。

このビジョンを「第二創業 / Challenge for Challengers」と位置づける。



課題を直視
構造的課題を正しく認識する



基盤は保たれている
予算・会議・運営の基本は維持



だから改革できる／する
事後活動の価値を最大化し、未来へ



次世代グローバルリーダーの育成と
地域社会・国際社会への貢献を加速！

TOKAI BEYOND BORDERS

TOKAI BEYOND BORDERS のご案内

TOKAI BEYOND BORDERSの公式LINEを友だち追加することで、世代や地域、興味関心に合ったイベントやプログラムの情報を手に入れることができます！
ぜひ新たなチャレンジを掴み取ってくださいね！



発行年：2025年

発行元：日本青年国際交流機構（IYEO）社会貢献チーム 東海チャレンジャーズサミット実行委員会 広報チーム

協力：令和7年度 世界青年の船事業 愛知地域実践プログラム実行委員会

編集：野村 奈々子

ライティング：石谷 梨那、岩田 ささな、田中 映音、野村 奈々子

デザイン：平山 龍希

東海チャレンジャーズサミット実行委員会

tokai.challengers.summit@gmail.com



Challenge for Challengers

ー 挑戦者のための挑戦を、この地域から。

世界は、日本は、一体どこに向かっていくのか。

私たちは、その問いに、地域から挑む。

少子高齢化、産業の空洞化、多文化共生の課題。

「失われた30年」を経た今、日本はかつてない岐路に立っています。

その縮図ともいえるこの愛知の地で、私たちは問い続けます。

この地域が直面する課題に、どのように向き合えば未来を切り拓けるのか。

そしてそこに、どんな可能性を見出せるのか。

2026年、「世界青年の船」がこの愛知に寄港します。

この特別な5日間、

地域の高校生・大学生、そして行政・大学・NPO・企業の皆様が、

世界各国から集う若者たちと交差し、国境や世代、立場の垣根を越えて、

ともに語り、学び、創る時間が始まります。

越境の先に見えるのは、きっと課題だけではなく、希望と変革の芽です。

ここ愛知から、世界へ。

そして、あなた自身の挑戦が、誰かの希望になる。

ようこそ、世界に挑み、地域を動かす未来のリーダーたちへ。

TOKAI BEYOND BORDERS とは？

TOKAI BYOND BORDERSは、東海チャレンジャーズサミット実行委員会の広報チームとして運営するメディア（広報誌・公式LINE）です。東海地方にゆかりのある若者たちが、自分の枠を超えて新たなチャレンジに踏み出せるよう、東海地方のさまざまな領域で活躍する団体・プログラムと協働して応援することを目指しています。

今回は、東海チャレンジャーズサミットの主催団体である「日本青年国際交流機構（IYEO：International Youth Exchange Organization of Japan）」について紹介するとともに、IYEO会員たちの原体験である内閣府の青年国際交流事業、そして「世界青年の船」事業の一環で愛知県IYEOが企画・運営する地域実践プログラムを特集します。

CONTENT

- 4 東海チャレンジャーズサミットとは
- 8 IYEOとは
- 9 5つの内閣府青年国際交流事業紹介+OBOG体験談
- 12 内閣府事業参加者の事後活動を見てみよう！
- 14 SWY愛知地域実践プログラム特集

01 Tokai Challengers Summit!

年に一度の、チャレンジャーによるチャレンジャーのための祭典！
東海チャレンジャーズサミットとは？



東海チャレンジャーズサミット概要



東海チャレンジャーズサミットは、東海地方にゆかりのある、あらゆる領域のキーマンやチャレンジャーが集うイベントです。内閣府の青年国際交流事業に参加した青年たちによる全国組織「日本青年国際交流機構（通称：IYEO）」による「青少年国際交流を通して国際社会や地域社会への貢献を考えるつどい（東海ブロックイベント）」をルーツに2022年度から開催され、2024年度からは内閣府や愛知県などの後援を受けて開催されました。

誰かのチャレンジが、次なるチャレンジを生み出す連鎖を起こしたいー

さまざまな世代・領域・フェーズを対象としたプログラムや活動が集結し、発表や交流を通じて各参加者が新たなチャレンジに出会えるような場となっています。

東海のキーマンと――

チャレンジャーたちが――

未来を見据えて語り合う――

東海チャレンジャーズサミットPV



視聴はこちら



第3回東海チャレンジャーズサミット開催報告

実際に、2024年度の東海チャレンジャーズサミットがどのような内容だったのかをご紹介します。
今年のテーマは、「Bonding Beyond Borders ～越境者たちよ、世代を超えて繋がろう～」。今の若者達が決定権をもつ2050年、さらにその先を見据えて、世界と世代を超えて話し合う機会となりました。



全体スケジュール

01 【全体会：パネルディスカッション】

「次世代リーダーが踏み出す未来に向けた一歩」というテーマで、高校生、大学生、若手社会人のパネラー3名にモデレーターを交えてパネルディスカッションを実施。一歩踏み出したきっかけや、新しいことにチャレンジするときのマインドセットなどをそれぞれの視点から語っていただきました。参加者と近い年代・境遇のパネラーが、参加者をエンパワーメントする存在となっていました。



02 【分科会】

若手トップランナーから各ジャンルの最新事例や解決したい課題について共有するディスカッションやワークショップを実施。ローカル・ソーシャル・グローバル・アート/クリエイティブなど7つのグループに分かれ、興味のある分野の世界を掘り下げ、各々のネクストアクションを考える機会となりました。



03 【海外派遣事業合同報告会】

内閣府青年国際交流事業・トビタテ！留学JAPAN・JICA 海外青年協力隊・Co-Doの4プログラムが報告会を実施。参加者は興味がある2つのプログラムについて詳しく話を聞くことができました。



04 【東海チャレンジャーズピッチ】

05 【ネクストアクションブース交流会】

参加者の興味関心を次のアクション・挑戦に落とし込むことを目的として実施。21もの団体が1分ずつピッチを実施し、8分×3タームのブース交流会で、参加者は興味をもった各団体のイベントやプログラムについて詳しく話を聞くことができました。



参加者の声

世代や立場を問わず参加できることがいいなと思いましたし、多様な方と実際につながりが生まれたことがうれしかったです。

昨年出会った方が無事に内閣府事業に参加され帰国報告する流れが作られており、出会ったことが次に生きているイベントだと感じます！

ブースでの交流で一層繋がりを持った印象があったので、ぜひ続けてほしいです

01 Tokai Challengers Summit!

ジャンルを、国を、限界を越える！

チャレサミ発のチャレンジャー紹介

東海チャレンジャーズサミットへの参加をきっかけに、新しいチャレンジを始めた若者をご紹介。平野一成さんは、東海チャレンジャーズサミットで紹介しているプログラムの中から「コモンビート」「東海学生アワード」「世界青年の船」の3つに参加。それぞれのプログラムに参加した経緯や学んだことをお聞きしました。



平野一成 22歳
Hirano kazunari 南山大学

CHALLENGE Programs

- NPO法人コモンビートによる作品「A COMMON BEAT」に出演
- 第6回・第7回「東海学生AWARD」プレゼンター/実行委員
- 内閣府青年国際交流事業「世界青年の船」事業

東海学生AWARD

場づくりを通して人が変化する起点を作りたいと思い、場づくりに力を入れている東海学生AWARDに作り手として参加。プレゼンターの想いや本音に向き合っていく中で、それを形にするサポートをしたいという気持ちが強まってきました。

コモンビート「A COMMON BEAT」

言葉以外で自分の「ありのまま」を表現したいと思い参加。周りの参加者たちが場の演出によって変化していく姿を目の当たりにし、「場づくり」の凄さを体感しました。

世界青年の船

挑戦を生き方にする覚悟を得るために参加。コモンビートで得た表現方法と東海学生AWARDで学んだ場作りの経験を活かして、プロジェクト参加者の本音を引き出してミュージカルという形で表現する「BOOMS」というプロジェクトを立ち上げました。

すべてのチャレンジを通して得たもの・感じたこと

初めて足を踏み入れる場所も多くあったため、今では「越境への抵抗感」がなくなりつつあります。それと同時に「最後までやりきる力」も得られました。また、色々なことに挑戦する中で、自分のやりたいことは「人の本音を形にする」ことだと気付きました。これからは「やりたいこと」と「生き方や働き方」をどんな形で重ねていくかを模索していきます。



次回開催のお知らせ

第4回 東海チャレンジャーズサミット 開催決定！

2026年
3月22日(日)

事前参加登録
フォーム



新たな出会い・チャレンジを創出するため、「こんな関わりをしたい!」「こんなプログラムもあるよ!」など、アイデアや情報をご提供いただける方・早くも参加を検討してくださる方は、事前参加登録フォームから意思表示をお願いします!!!

協力団体・プログラム紹介

IYEOの会員が事後活動として関わる組織やプログラムなどが中心となり、さらに周囲の団体の協力を得ながら、新たなチャレンジャーを生み出す空間をつくりあげました。ここでは、一部の団体及びプログラムをご紹介します。

トビタテ！留学JAPAN（文部科学省）



日本の未来を創る“グローバルリーダー像”と留学を通じた学びを刷新し、日本の社会課題解決や産業創造に貢献する人材の育成を目的とした海外留学支援制度です。官民が協働し、高校生・大学生を対象に返済不要の留学奨学金プログラムを運営しています。近年は、高等学校段階からグローバル人材育成に取り組む留学モデル拠点地域づくりや、帰国後のトビタテ生のネットワーキングなどにも着手しています。

東海ヒトシゴト図鑑（運営：NPO法人G-net）

東海ヒトシゴト図鑑

東海ヒトシゴト図鑑とは、挑戦する人、挑戦する企業、挑戦したくなるプロジェクトを発信する東海地域の「人と仕事の」マッチングプラットフォームです。ターゲットは、地域で働くことに少しだけ興味を持ち始めている若者たち。掲載企業発掘隊が、地域で働く面白さや価値を身近に感じられるコンテンツに編集して発信しています。あなたも、取材・ライティングを通じて自分の仕事観を見つけてみませんか？

愛知・岐阜・北海道で開催！ 子どものまち「マーブルタウン」



小学生対象の子どものまちマーブルタウンは、2009年に愛知県岡崎市でスタートしました。これまで延べ約2万人の小学生が参加し、高校生・大学生ボランティアが活躍しています。「地域でも参加したい」という若者たちの思いが広がり、愛知・岐阜・北海道や神奈川など、様々な地域で開催しています。

100人100日ミュージカルプログラム （主催：NPO法人コモンビート）

「やりたい気持ちが参加資格!」100人の仲間と100日で大舞台に立つプログラム。普段出会えない



ような年齢も職業も価値観もバラバラな仲間たちと、お互いの自分らしさ（個性）と向き合い、「異文化理解の大切さ」と「平和へのメッセージ」を込めたミュージカル『A COMMON BEAT』をつくりあげます。プロの音響や照明のもと、大きなホールで本格的なミュージカル公演をする経験はさることながら、100日後も続くような仲間との繋がりも宝物になるはずです。

02 What is “IYEO” ?

IYEOとは？

IYEOは、内閣府青年国際交流事業に参加した日本青年たちによる全国組織です。1985年に発足し、2025年で創設40周年となります。IYEOの組織はソーシャル、グローバル、ローカルの三領域の活動を担う活動系組織、活動支援と組織基盤構築を担う業務系組織で構成され、関係者はボランティアで役割を担っています。

IYEO会員は、それぞれの地域・職域で、住民や企業、行政、他団体との連携を深め、未来を担う世代と共に多文化共生社会の実現に向けて社会貢献活動を続けています。



VISION

ビジョン

地域と世界の両方の視点からより良い社会を考え、
多文化共生社会を実現する意欲のある青年から、
日本一頼られる団体になること

MISSION

ミッション

- 01 国際交流の経験を活かし、渴望感や課題感に突き動かされる行動を通じて、個人のキャリア形成と地域・世界への貢献を両立する
- 02 時代の変化がもたらす社会課題へ取り組む青年たちと共に地域・世界の持続的な未来に向けたコレクティブインパクトを創出し、アクションプランを策定・実行して社会変革の当事者となる
- 03 青年の自発的な挑戦や成長の加速を支援し、その結果として青年がもたらした社会の変容を広く社会に発信する



IYEOマスコットキャラクター「ランナス」

03 Five Key Initiatives

内閣府の5つの国際交流事業

IYEO会員に共通する体験である内閣府の青年国際交流事業を、東海地方出身のOBOGの体験談とともにご紹介します。内閣府では、国際社会や地域社会で活躍する次世代グローバルリーダーの育成を目指し、2つの船事業、3つの航空機事業をあわせて5つの国際交流事業を実施しています。

各事業において、日本及び諸外国の参加青年は、世界的視野に立った共通課題の意見交換、自国の文化の紹介などの各種交流活動や、産業・文化・教育施設の視察、ホームステイなどの活動を行い、友好、親善を深めます。

「東南アジア青年の船」事業

「東南アジア青年の船」事業は、日本と東南アジア諸国連合（以下「ASEAN」という。）の各国との共同声明（1974年）を契機に、日本政府とASEAN各国政府との共同事業として開始したものです。日本青年は、ASEAN各国の青年と共に、東南アジア各国を船で周り、船内等で約1ヶ月間の共同生活を行いながら、ディスカッションや文化交流を行います。東南アジア各国から選抜かれ

た青年との切磋琢磨の中で、アジア地域の未来を担う人材の育成を図ります。

プログラム期間	訪問国
1月～3月 (33日間程度)	ASEAN諸国 2か国程度
参加青年数	
日本青年20名程度 外国青年9か国150名程度	



参加国
ブルネイ・ダルサラーム国/カンボジア王国/インドネシア共和国/ラオス人民民主共和国/マレーシア/フィリピン共和国/シンガポール共和国/タイ王国/ベトナム社会主義共和国/日本 ※2025年度の場合

活動内容
表敬訪問/ディスカッション活動/各種視察/地方プログラム/文化交流/ホームステイ/訪問国青年との交流活動等



出身地：三重県四日市市
参加事業：東南アジア青年の船（'24年度）

水口佑華（みずぐち・ゆか）さん

2017年にローカルユースとして「東南アジア青年の船」に関わったことをきっかけに、参加しようと思いました。この事業は、船に乗しながら東南アジアの国々との交流を行う、夢のような「旅」です。東南アジアは日本との共通点がありながらも、違いもたくさんあり、UnityとDiversityを感じました。また、日本の代表としてふるまう難しさもありましたが、誇らしさも感じました。この事業に参加し、チームビルディングやプロジェクトマネジメントを学びました。準備の大

変さや、体調不良で自分の力を100%出し切れず悔しい想いをする場面もありましたが、尊敬できる仲間に出会えたことで、乗船後も一生のつながりを得ることができました。今後は、「ローカル」×「グローバル」×「アート」をテーマとしてキャリアを作っていきたいです。大学卒業後は、「ローカル」を中心に活動してきましたが、「東南アジア青年の船」で「グローバル」に再び踏み出すきっかけと勇気もらいました。海外に関わる機会を増やし、地域と世界をつなげていきたいと思っています。

OB・OG体験談

03 Five Key Initiatives

「世界青年の船」事業

日本青年は世界各国の参加青年とともに日本国内を船で周り、約1ヶ月間の共同生活をしながら、ディスカッションや文化交流等、様々な活動を行います。寄港地においては、地域実践活動として、地域の人々と共同で実際の課題の解決に向けたプランニングから実践までを行います。世界各地の青年が集い、ディスカッションや文化交流等を通じて、異文化対応力、リーダーシップ力などの向上を図り、社会貢献ができる次世代グローバル・リーダーとなる青年

を育成するとともに、グローバルな人的ネットワークを構築することを目的としています。

プログラム期間	寄港地
1月～3月 (26日間程度)	愛知県、沖縄県 ※2025年度の例
参加青年数	
日本青年80名程度 外国青年12か国176名程度	



参加国
カメルーン/カナダ/チリ/ドミニカ共和国/ギリシャ/インド/ジャマイカ/モンゴル/モザンビーク/ニュージーランド/パラオ/スペイン/日本 ※2025年度の例

活動内容
ディスカッション活動/文化交流/ 地域実践活動/地域訪問活動等



八鳥初美 (はっとり・はつみ) さん

出身地：三重県四日市市 参加事業：世界青年の船 (24年度)

高校生の時、兄が参加しており、伝統衣装を着た参加者と英語が飛び交う環境に魅了され、「いつかこの船に乗って国際交流をしたい」と思い、大学生の時に応募しました。

この事業は、世界中から異なるバックグラウンドを持つ青年が集まるため、日本での日常生活では出会えない人たちと共同生活をしながら、多様な価値観や文化

に触れることができます。

この事業に参加したことで、かけがえない友人と出会うことができました。バックグラウンドが全く異なる人たちとの生活はとても刺激的で、自分の視野を大きく広げてくれました。今後は、学生に向けて国際交流の楽しさを伝えるため、内閣府事業や国際交流の魅力を発信していきたいです。

OB・OG体験談

日本・中国青年親善交流事業 [派遣プログラム]

「日本・中国青年親善交流事業」は、1978年の日中平和友好条約の締結を記念し、1979年から日本と中国両国政府が共同して実施しています。本事業は、日本青年等と中国青年等が日本、中国各地において、特定のテーマの下に、共に各種交流活動を行う交流プログラム、日本参加青年に対する研修によって構成されます。日本と中国の青年の交流を通じて、青年相互の友好と理解を促進するとともに、日本青年の国際的視野を広げ、国際社会で指導性

を発揮し、社会貢献活動に寄与する青年を育成することを目的としています。

派遣期間	訪問地	参加青年数
11月頃 (10日間)	北京市 ※2025年度の例	15名程度
活動内容	テーマに沿ったディスカッション/課題別施設訪問/政府機関等への表敬/文化交流等	



国際社会青年育成事業 [派遣プログラム]

「国際社会青年育成事業」は、1959年に上皇上皇后陛下下の御成婚記念事業として開始した「青年海外派遣事業」と、1962年開始の「外国青年招へい事業」を改組し、現在の「国際社会青年育成事業」として発展させたものです。世界的な社会課題をテーマに設定し、当該テーマに取り組む3か国の青年と、テーマに関わる実務に従事している又は関心を有する日本青年が、お互いの国を相互に訪問した上で、東京において一堂に会し、テーマに沿ったディス

カッションや施設訪問、文化交流等を通じて、相互理解と友好を深め、世界課題の解決に貢献する青年を育成します。

派遣期間	9月～10月 (13日間)
参加青年数	8名程度×3地域



地域・テーマ
【障害者分野】 イタリア 【高齢社会分野】 ドイツ 【バリアフリー・ユニバーサルデザイン分野】 フランス ※2025年度の例

活動内容
テーマの関連施設訪問/ホームステイ/政府機関等への表敬訪問/ディスカッション/文化交流等



角田渉 (つのだ・わたる) さん

出身地：愛知県春日井市 参加事業：国際社会青年育成事業 (24年度)

人生において一回も関わりのない世界に飛び込んでみたいと思い、参加しました。

この事業では、中米カリブ地域にて国際交流を行いました。帰国後、東京にて開催された国際会議に参加し、現地で学んだことをもとにディスカッションしました。

長時間の移動や時差、連続するプログラムにより、体力面でもハードでした。海外青年とのディスカッションはシナリオ通りに進まず、日本の常識が通じないことを痛感しました。

将来的には国際社会で活躍したいので、国際経験をさらに積んでいきたいと思っています。

OB・OG体験談

日本・韓国青年親善交流事業 [派遣プログラム]

「日本・韓国青年親善交流事業」は、1984年の日韓両国首脳会談における共同声明の趣旨と、1985年の日韓国交正常化20周年を踏まえ、1987年から日本と韓国両国政府が共同して実施しています。本事業は、「日本青年韓国派遣」、「韓国青年日本招へい」、「日韓青年親善交流のつどい」及び日本参加青年に対する研修によって構成されます。日本と韓国の青年の交流を通じて、青年相互の友好と理解を促進し、日本青年の国際的視野を広げ、国際協調の精神をかん養し、国際協力の実践力を向上させることにより、国際社

会で指導性を発揮し、社会貢献活動に寄与する青年を育成することを目的としています。

派遣期間	訪問地	参加青年数
10月～11月 (13日間)	北京市 ※2025年度の例	20名程度
活動内容	現地青年とのディスカッション/文化交流/施設訪問/ホームステイ/政府機関等への表敬訪問等	



04 Post-Program Activities!

内閣府事業参加者の事後活動をみてみよう！

内閣府事業に参加した後は、海外で得た貴重な体験をいかし、それぞれの地域社会・職域などにおいて社会貢献や国際協力等を促進する事後活動を行うことが期待されています。今回は、東海地方から世界に羽ばたいた先輩たちが、その後どのような活動を行ったのかを伺いました。

ネクストアクションの学びを伝え、次の世代につなぐ



水野郁絵さん Mizuno ikue

出身地：愛知県春日井市 参加事業：世界青年の船（'23年度）

「世界青年の船」事業を通じて、私は多様な文化や価値観に触れる経験をしました。自国紹介では、日本文化や愛知県の歴史を見つめ直し、文化や伝統が自分自身と深く結びついていることに気づきました。この気づきを通して、自分の文化やルーツをもっと多くの人と分かち合いたいという思いが芽生えました。

また、地域プログラムで受け入れ側の温かいサポートに感動したため、その思いを次の世代に繋げていきたいと感じ、事後活動に取り組んでいます。

2024年度の「世界青年の船」事業では、事後活動セッションの担当として一部の区間に乗船しました。事後活動セッションでは、国際社会青年育成事業で参加青年を受け入れるにあたり、愛知県の実行委員を務めて得た学びを紹介しました。自分の経験を言語化することの難しさを感じつつも、言葉にして共有することで新たな気づきを得たり、学びが深まったりすることから「語る力」の大切さに気づきました。

今後も、自分の経験を伝えることで次の誰かの一步を支えられるよう、活動を続けていきたいです。



フィールドワークのためインドへ渡航、そしてJICAへ



三輪久美子さん Miwa kumiko

出身地：三重県桑名市 参加事業：世界青年の船（'23年度）

大学生時代に出会った先輩を通じて、「世界青年の船」事業を知りました。

社会に貢献したい想いは学生の頃からありましたが、実感を持って問題と向き合う機会はありませんでした。だからこそ、世界五大陸から集まった同世代の仲間と対話し、異なる背景や視点から問題を捉え直したいと考え参加しました。船上での多様な出会いや学びの積み重ねは、今の自分の価値観や行動の土台となり、現実の課題に向き合う覚悟が芽生えた原点となる経験でした。

私の事後活動は大きく2つあります。1つ目は、インドで環境課題に関するフィールドワークを実施したことです。資源循環に取り組むNGOの代表である参加青年と意気投合し、彼の現場を訪ねました。設備の視察だけでなく、彼の家族や仲間たちと時間を過ごしたことは、文化を深く理解するうえでも非常に貴重な経験となりました。

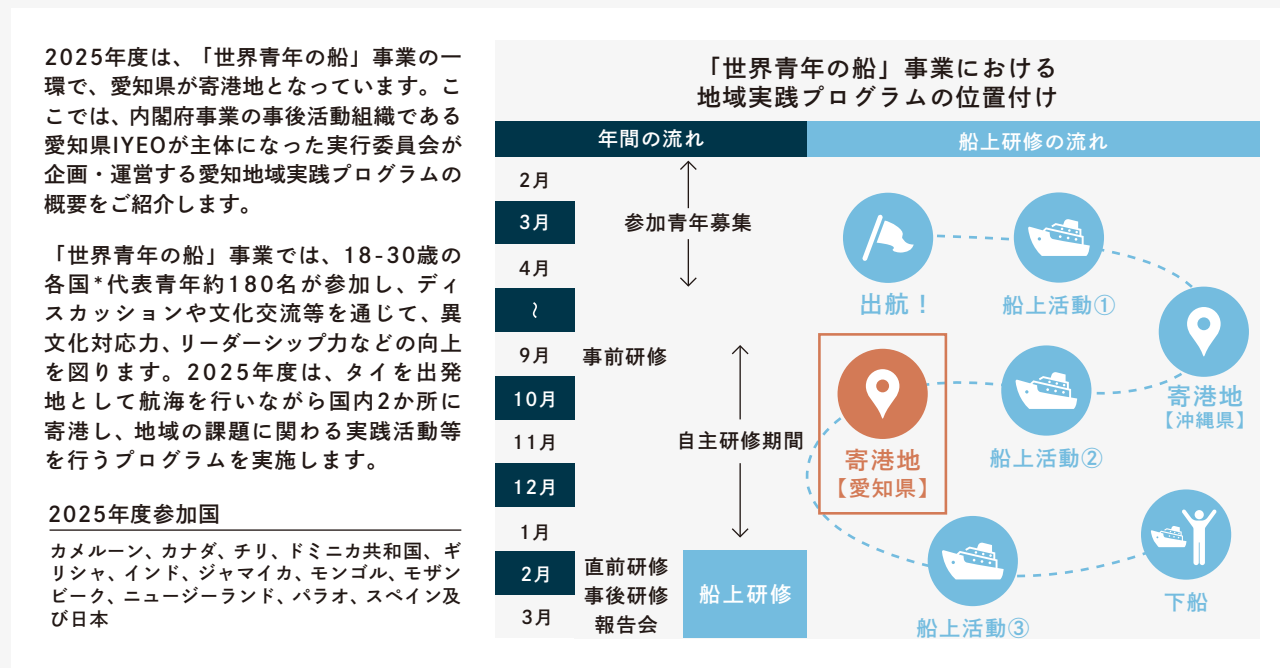


2つ目は、現在JICA海外協力隊として、マーシャル諸島クワジェリン環礁イバイ島でリサイクル推進に携わっていることです。現地ではすべてのごみが野積みされている状況ですが、地方政府と協力しながら、近年中にはリサイクルセンターを建設予定です。「世界青年の船」事業参加中に、同じ大洋州のソロモン諸島の青年から「君にやってほしい」という言葉をかけられ、私の背中を強く押してくれました。



05 SWY Comes to Aichi!

世界青年の船（SWY）が愛知県にやってくる！ グローバルな視点で地域と世界を見つめよう。



愛知地域実践プログラムの概要

テーマ | 「失われた30年」で岐路に立つ愛知県 ～日本の課題のショーケースとして、地域の未来を切り拓く～

日本は過去30年間、経済の停滞、人口減少、産業の空洞化といった多くの課題に直面してきました。愛知県は、日本有数の製造業の中心地でありながら、都市部と地方が共存し、多様な社会課題が凝縮された地域でもあります。今回は、愛知県を“日本の課題のショーケース”として捉え、テーマ別フィールドワークでは8つのテーマを選定。国際的な視点から各テーマについて議論し、プログラム全体を通じて地域の特性・可能性をふまえた持続可能な社会の実現に向けたアクションを探ります。

	Day1	Day2	Day3	Day4	Day5
GOAL 概要	ローカルユースとの交流を通して、地域の歴史や文化を理解する	地域の産業や人々の課題感に触れ、課題の構造や可能性を理解する	社会課題の現場やキーマンに触れ、仮説やアイデアをぶつけ合う		分野や世代を超えて、未来のために何ができるかを発表し合う
午前	入港/オリエンテーション HELLO SWY Program (船上プログラム)	地域理解研修②	テーマ別 フィールドワーク ①	テーマ別 フィールドワーク ②	発表準備
午後	地域理解研修②	GIS (グローバルイノベーションサミット) 船上レセプションパーティ			Co-Creation Conference / 出港

テーマ別フィールドワークの、注目の8コースをご紹介します！

各テーマに沿って、視察先がセッティングされています。各地を視察しながら、テーマとして掲げられている問いについて、各国の青年たちとディスカッションしていきます。

01 環境

How can we design a sustainable renewable energy cycle and consumption behavior shifts that leverage regional characteristics to achieve global climate change action?

地球規模の気候変動対策を達成するために、地域の特性を活かしたエネルギー循環と消費行動の転換はどう設計できるか？

02 エンタメ

What does society need to ensure a fulfilling life, both materially and spiritually?

物心両面で豊かな人生を送るために、社会で必要なものはなにか？

03 防災

How can we prepare for and respond to natural disasters and pandemics beyond our control in society and local community?

自分たちの力の及ばない天災・疫病などに対し、社会や地域の中でいかに備え、対応するか。

04 共生社会

What is needed to create a society where differences are not a cause for exclusion, but a foundation for coexistence?

違いがある人が分断・排除される対象ではなく、共に地域で生きることが当たり前になるために何が必要なのか？

05 起業

How are globally minded entrepreneurs born and how do they thrive?

イノベーションを起こす起業家の源泉は何か？

06 教育

How can schools and communities work together to nurture young people? What does youth development look like beyond just relying on schools?

学校・地域が協働して若者をどのように育むのか？学校だけに任せない若者育成の在り方とは何か？

07 地域

What kind of sustainable system is needed for young people to envision a hopeful future in their communities?

地域の中で若い世代が希望を持って生きていくために必要な循環とは？

08 伝統文化/産業

How can we preserve and evolve valuable traditions and industries for future generations?

伝統産業を単なる“商品”として見るのではなく、地域の知恵や価値観(=文化)として捉え、経済的な持続を含めてどのように残していくといいのか

▼ 2024年度の「世界青年の船」事業の一環で”高知県に寄港した時の様子”



* 3月末日時点での企画案（訪問先等は変更の可能性あり）